

栃木市の魅力を再発見できる「モノ・コト・ヒト」マガジン

aru

Tochigi City Real Visual Magazine



この冊子に関するお問い合わせ／栃木市 総合政策部 シティプロモーション課
〒328-8686 栃木市万町9-25 電話：0282-21-2315

“

モノ

ノ

語

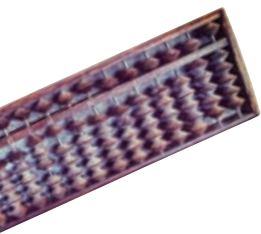
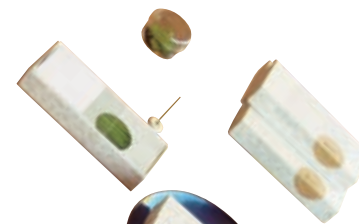
”

”

今も変わらず魅了する、
妙技とモノたち。



Tochigi City



モノ語り MONO-GATARI

古き街並みが残る、ここ栃木市。
この街の片隅にひっそりと、でも確かに。
つくり継がれるモノ、語り継がれるモノ、
職人の技が“ある”。
時代が変わり、少しずつ街が変わろうとも
私たちが今も変わらず魅了する
妙技とモノたち。
そんな、“モノ語り”をはじめよう。

WHAT'S "aru" ?

“aru”って？
自然、歴史、文化、安心できる生活。
栃木市には、ゆるやかに流れる時間の中で育まれてきた、
たくさんの魅力があります。
“aru”は、そんな栃木市に“ある”いろいろな魅力を
再発見してもらうために誕生した、
Real Visual Magazineです。

CREATE

職人たちのモノ語り

- 05 大兵工務店
- 07 栃木レザー株式会社
- 09 桐工房 沼尾商店
- 10 香と線香 蘭と月

CULTURE

文化を造る人々

- 11 とちぎ秋まつり
- 13 手古舞
- 14 職方

DELICIOUS

食べモノ語り

- 15 赤城亭
- 16 あさかやパン店
- 17 Patisserie SOIR
- 18 BOOK&カフェなずな

SCENERY

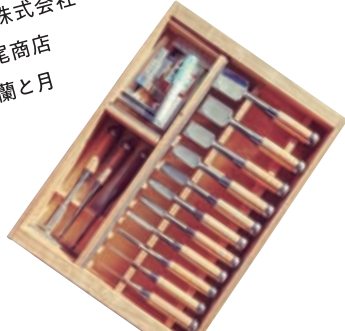
景色が語るモノ

- 19 太平山県立自然公園
- 21 蔵の街遊覧船
- 23 巴波川周辺
- 25 下を向いて歩こう

OTHER

他にもいろいろ

- 27 みんなのどち介！
- 29 ゆる栃くらすたReport
- 31 クチコミで知る栃木市
- 33 栃木市“活人”
- 35 栃木市ふるさと大使
- 37 編集後記



カタチのあるモノは、いつかその姿を変えてしまう。

でも、すべてのモノには生みだした人の想いと技がある。

その意志を受け継ぐ人々が絶えない限り、

想いと技は変わることなく時代を越えていく。

この街の中で、今も静かに息づく

時代を越えたモノづくりと、職人達の物語。

CREATE

つくり継ぎ、語り継ぐ者たち。



街の記憶を守る手仕事。

歴史ある文化財や蔵の改修・修復などを手掛ける「大兵工務店」。
古くから守られてきた建物と街並みを100年200年先の後世に引き継ぐために、
先人たちの技と知恵を継承し、同じ志を持った職人や若手への技の伝承なども行っている。
建物は、街と人が積み重ねてきた多くの歴史を語る。
その時代に生きた人たちの姿を想像させ、その時代へ私たちをトリップさせてくれる。
職人たちは、永遠ではないモノを愛し守り続け、街に生きた人々によって
脈々と綴られてきた歴史のページを、変わることの無い技で語り継いでいる。

だいろ
有限会社 大兵工務店
栃木市室町4-12
TEL.0282-22-2321
<http://www.daihyou.com/>



「岡田記念館 床屋・南館」修繕前



「岡田記念館 床屋・南館」現在の姿

守り続けた技が、“皮”から“革”へ 昇華させる。

日本のみならず、海外からも高い評価を得ている「栃木レザー」の革。職人たちが約20もの工程をかけて生みだす。
特に革を加工する“鞣し”^{なめ}においては、他では行なっていない手法を昔から守り続けている。
大きな手間のかかる手法だが、他では真似できない“ひと手間”に心血を注ぐことが職人たちの流儀。
そんな職人の一人でもある、木嶋崇優^{たかまさ}さんは「1日に作業できるのは40枚が限界。でもお客様にとったらすべて同じ1枚。
だから朝だろうと夕方だろうと、1枚1枚に同じ力を入れて仕事をしている」と語る。
長い時間と手間をかけ、ただの“皮”だったものは、美しく丈夫な“革”に姿を変える。
職人たちにとって革は単純に“作る”というより手間隙と愛情をかけて“育てる”ということに近い。
このようにして生まれた「栃木レザー」の革は、これからも多くの人々の心を惹きつけていく。



栃木レザー株式会社

栃木市城内町2-1-4
TEL.0282-24-0666
<http://www.tochigi-leather.co.jp/>

MOVE AROUND "aru"
01
CREATE
MONO-GATARI

美しい足音を立て、歩みは続く。

江戸時代、栃木では下駄作りが盛んに行われ、かつては静岡・広島と並び桐下駄の三大産地として発展し江戸の人々に広く親しまれていた。しかし時代と共に職人は減少、この街で「桐工房 沼尾商店」を営んでいる沼尾茂夫さんは、今では数少ない桐下駄の職人のひとりだ。古くから親しまれてきた桐下駄を、現代の人々にも履いてもらおうと、若い人向けのファッション性の高い下駄や、健康を考えた五本指の下駄など様々な試行錯誤を繰り返している。古きモノを守りながら、新しい価値を取り入れる。そのモノ作りの姿勢には、昔ながらの“粋”な魂が垣間見える。時代を越えてきたその桐下駄は、少しずつ姿を変えながら、今なお美しい足音を立て歩み続けていく。

桐工房 沼尾商店

栃木市旭町13-38
TEL.0282-22-3764
<http://www.tochigi-cci.or.jp/kigyuu/meikan/numaousyoutenn.html>

百年の香りは、ふたたび立ち昇る。

ここ「蘭と月」で線香・香づくりを手掛ける樋口喜巳^{よし}さんは、線香製造40年以上のキャリアを持つ職人。彼の作る線香は栃木県の「伝統工芸品」にも指定されている。樋口さんは、かつて栃木市の老舗線香店「一心堂」の工場長を務めていたが、近隣の火事によってその製造所を焼失。約100年の歴史を歩んできた一心堂は門を閉じ、樋口さんは個人で線香・香の製造を続ける方法を模索していた。そんな中、彼の線香づくりの復活を望む多くの声があがり、樋口さんは一心堂時代の取引先であった「蘭と月」に相談。その末、この栃木市に新たな店舗と製造所を設立することが決まった。「蘭と月」は、樋口さんの香りと技術を途絶えさせないために、樋口さんは、受け継いだ線香・香の文化継承と、技術発展へ更に精進するために、互いに手を取り合い、この街で新たなスタートを迎えることになった。現在、樋口さんは誰からも愛される「古さと新しさ」を調和した理想の香りを探求している。一度途絶えかけたその香りは、ふたたび立ち昇りはじめた。

香と線香 蘭と月

栃木市万町3-22
TEL.0282-21-7787
<http://rantotsuki.com/tochigi.html#menu-main>



人の情熱が生み出す景色。

CULTURE

明治7年に街の商人たちが、江戸東京の祭りで使われていた山車を買付けて披露。それ以後、街の経済を支えてきた各町内の商人たちが、その心意気を競うように山車の購入や製作を始め、祝いの度に披露したのが始まりとされている。

写真は「ぶっつけ」(通りを巡行する山車同士が、それぞれの山車を向かい合わせ、お囃子を競い合う、祭り最大の見どころ)の様子。

とちぎ秋まつり

TEL.0282-25-2356(栃木市観光協会)
<https://www.tochigi-kankou.or.jp/event/akimatsuri>

MOVE AROUND "aru"
02
CULTURE
MONO-GATARI



手古舞(てこまい):山車の前を練り歩き、祭りを盛りあげる女性たち。その起源は、江戸時代に山車を警護した鷹職からきているそうだ。

美しく熱い、祭りの花たち。

手古舞(てこまい)としてとちぎ秋まつりに、5歳から約20年間参加している須賀実咲さん。彼女が語る祭りの魅力は「ぶっつけ」。手古舞はぶっつけの際に山車に登り、大きな掛け声でぶっつけを盛りあげる。凛とした表情から、威勢のいい声と表情に変わる様子は、花火のように美しく熱い。「祭りの期間中は、アドレナリンが出ているから眠くないし、体力の消耗も気にならない」と話している彼女の顔はつねに笑顔だ。また、「祭りの時にしか会えない人が自分のことを覚えてくれていることが嬉しい」と話している。2年に1度行われる祭りは、この街に生きる人々の心と心をつなぐ空間になっているようだ。今回で手古舞としての参加は最後になるそうだが、共に参加している若き後継者へ着物などを引き継ぐつもりだと話している。祭りを彩る伝統と精神は、新たな世代へと継承されていく。



山車の組み立てを行う職方(しょくかた)として約40年前から祭りに関わっている齋藤政男さん。彼は、万町1丁目を代表して山車を先導する「頭」の役目も担っている。代々の頭に受け継がれている、明治13年に作られた革製の羽織を着た時には「伝統の重みを感じ、身が引き締まる」と話している。また、祭りの魅力について聞くと「山車の豪華さと、人形の美しさ。これほど美しく歴史ある山車は県内で栃木市だけだと思う」と熱く話してくれた。頭としての見せ所は、やはり山車の「ぶっつけ」。各町内の頭同士の合図ではじまり、祭りの熱気は最高潮に達する。まさに町内同士の魂のぶつかり合い。齋藤さんは「自分の町の山車が一番というプライドを持ってやっている」と語る。それは、140年余り経った今でも変わることなく受け継がれる、先人達の魂を背負う男の姿だ。

背負うのは、先人達の魂。

DELICIOUS!

食べモノ語り。

あの日、あの時、誰かと食べた味。
カタチは無くてもちゃんと覚えている。
誰かの美味しい時間と記憶を作る人たちのストーリー。



伝統×好奇心=美しい味。

路地裏にひっそりと佇む、大正12年創業の老舗洋食店。
“古いもの”と“新しいもの”の融合をコンセプトに、
江戸料理を現代風にアレンジした創作料理にも挑戦している。
常に遊びゴコロを忘れない店主が創り出すのは、目と舌で楽しめる美しい味。



「おかえり」と言ってくれる味。
「ただいま」と言いたくなる場所。

創業から60余年。当時のレシピで作られるパンは
学校給食にも提供されていた懐かしい味。
カウンターには今も現役のそろばんと、
いつもの笑顔が出迎えてくれる。
顔を合わせ、会話を楽しみながら買うパンは、
忘れそうになる“あの頃”と“温かさ”を
思い出させてくれる。

あさかやパン店
栃木市万町19-20
TEL.0282-24-1400



赤城亭
栃木市旭町25-5
TEL.0282-22-0360
<http://akagitei.jp/>





コーヒーの香りと、

本好きの店主が営むBOOKカフェ。
お店の扉を開くと、
店主が集めたアンティーク家具と
本たちが迎えてくれる。
静かな店内に漂うコーヒーの香りが
心を落ち着かせてくれる。
手づくりのケーキを相棒に本をひらき、
活字の海原へと旅に出る。
そこに待つのは、自分だけの世界と時間。

MOVE AROUND "aru"
03

DELICIOUS
MONO-GATARI

本のおいに誘われて。

いろいろなモノとずっと
繋がっている今だから、
たまには一人きりの静かな時間が
きつと大切。
気がつくとお腹が空いていた。
自分の世界に没頭すると、
つい空腹も忘れてしまう。
この店おすすめめの「なほめし」でも
いただくとしよう。

創業1973年の隠れ家的なパティスリー。
季節ごとの旬な素材にこだわっているため
おなじ時期に、おなじケーキがあるとは限らない。
季節ごとに味わえる、おいしい巡り合わせは、
訪れた人のココロを躍らせる。

Pâtisserie SOIR
[パティスリー ソワール]

栃木市旭町24-9
TEL.0282-24-6483
<http://www.soir-cake.com/index.html>



BOOK&カフェなずな

栃木市倭町1-21
0282-21-7273



SCENERY

めぐり物語

季節がめぐる、日々がめぐる。自然も街も人も、繰り返しの中でそれぞれの物語を綴っている。

太平山県立自然公園

栃木市平井町
TEL.0282-25-2356(栃木市観光協会)
<https://www.tochigi-kankou.or.jp/spot/ohirasan-kenritsushizenkouen>



MOVE AROUND "aru"
04
SCENERY
MONO-GATARI



川の流れにのせて、
古き物語を歌う。

うすまがわ
街中を流れる巴波川。かつては、物資を運ぶ多くの舟が行き交い、

江戸との貿易地点として栄え、街の経済発展の大きな役割を担っていた。

時代が変わったいま、舟はたくさんの観光客を乗せ、船頭たちは

川のゆるやかな流れにのって「栃木河岸船頭唄（とちぎかしせんどうた）」を歌い、
街と歴史の案内人として今日も舟を漕ぎ進めている。



蔵の街遊覧船

栃木市倭町2-6 蔵の街遊覧船待合処
TEL. 0282-23-2003
<http://www.k-yuransen.com/>





「蔵の街遊覧船」の屋形船ライトアップ



「うづま美容室」の看板



「横山郷土館」に飾られた、太平山土産の魔除け天狗

川沿いにある、小さな物語の交差点。

巴波川沿いを歩きふと目に映る景色。いつもは素通りしてしまうその景色には、そこで生活する人々の小さな物語が交差している。



「蔵の街遊覧船」壁ののぞき穴



「平澤商事」のレトロ看板



「佐山自転車店」の店先



今もクリニックとして使われる「柵木病院」の入り口



「お菓子のせきね」前の、こいのえさ売り場

下を向いて歩こう。

@巴波川周辺



#市役所付近 #路面アート #山車



#消火栓 #消防車 #旧市章みつけた



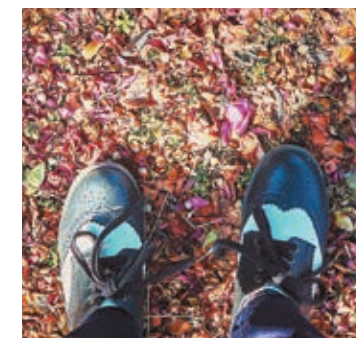
#乗降場 #乗



#旧市役所近く #蔵の街 #栃木市章



#ひさしぶりの #滑り台 #ブルー



#枯葉 #落ち葉 #花 #ピンク



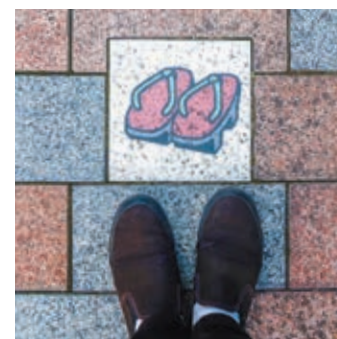
#幸来橋周辺 #巴波川の東側 #網手道



#下を向いたら #らくがきしたくなった



#瀬戸河原公園 #椅子 #東屋



#蔵の街遊覧船待合処付近 #路面アート #下駄



#ミツワ通り #路面アート #鯉の街



#消火栓 #まとい #火の用心



#埋め込みアート #空き缶



#埋め込みアート #瓦



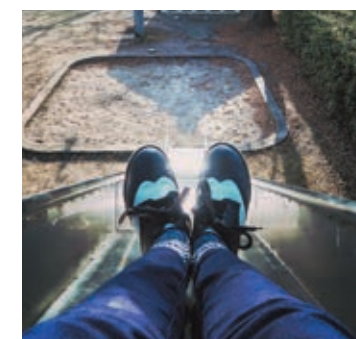
#ミツワ通り #旧市章みつけた



#乗降場 #降



#紅葉 #落ち葉 #銀杏 #イエロー



#子ども時代 #なつかしい

MOVE AROUND "aru"
04
SCENERY
MONO-GATARI



時には下を向いて歩いてみよう。前に見えるものだけが全部じゃない。

誰も気づかない小さなモノ・コトは、意外と足元に転がっていたりする。

それを発見できたら、ちょっぴり幸せな気持ちになれるかも。

TOCHISUKE

とち介に 13の質問

ゆるキャラ®としての、ゆるくて熱い
想いからプライベートなコトまで、
とち介に思いつくままに13の質問
をぶつけてみました。とち介らしさ
満載の回答をチェック!

Q.01 小さい頃の夢は?

ぼくの夢は、ずうっと
「みんなが大きな福で
いっっぱいになること」だよ。

Q.02 今年の春の予定は?

お花さんや小鳥さんたちに
ごあいさつして、それから…う～ん
たくさんあって
お話しきれないや!!

Q.03 怒ると黙るタイプ?

(●'人'●)

Q.04 仕事は好き?

みんなや、すてきなことに会えるから

すきっ!

Q.05 いつも一緒にいるなかまは?

栃木市にすんでいるおともだち、応えんしてくれるおともだち、キャラクターのおともだち、

み～んなといつもいっしょの気持ちだよ☆

Q.06 座右の銘は?

いちごいちえ♪

Q.13 “aru”読者にひとこと!

これからも、“aru”と栃木市とぼくを

よろしくどうぞっ♪

Q.12 行きたい場所は?

まだ会ったことの
ないおともだちが
いる場所☆

Q.11 最近の悩みは?

おでかけしたい所が
たくさんあること。

Q.10 最近一番 感動したことは?

おともだちの「あったか」と
「あったか」がつながって、

「大きな福」

になったばめんにいたこと。

Q.09 ペット派?布団派?

おふとんさん♡

Q.08 好きなテレビ番組は?

ふるさと大使の方がかわって
いる番組や、栃木市にかんする番組
をちえっくちえっくしているよ。

Q.07 休日の過ごし方は?

ぬっくぬくでもっちもち。

MEETS...

ぼくの日常を、ほんのすこ～しだけご紹介!
いろんなトコロで、いろんな仲間に出会っているよ★

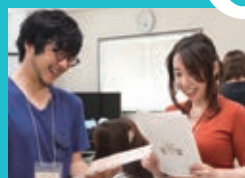


01. 交野天神社におでかけしたよ☆(●●人●)(大阪府枚方市 樟葉宮表参道商店会 みつけちゃん) 02. 佐倉「江戸」時代まつりの山車の
まえてばちり!!p【◎】q●人●●(千葉県佐倉市 カムロちゃん) 03. うしろにあるのは「唐門」。一乗谷 朝倉氏遺跡のなかにあるよ(n●●人●●)
(福井県福井市 朝倉ゆめまる) 04. のんのすそのん♪(●●人●●)お多すそのん♪(静岡県裾野市 すそのん) 05. おおまびよんになり
きってみたよ(●つ人//)(長野県大町市 おおまびよん) 06. (●●人●●)。(三井アウトレットパーク北陸小矢部で、おやつのかかん…) (富
山県小矢部市 メルギューくん・メルモモちゃん) 07. 水戸城跡。二の丸展示館をごあんないしてくれたんだ(●人●●) (茨城県水戸市 み
とちゃん) 08. 京都国立博物館のすてきな庭をおさんぽしたよ!!(((●>人<) (京都府京都市 京都国立博物館 トラりん) 09. 月に1回お
こなわれる「キトキトマルシェ」での～んびり(つ●●人●●c)(山形県新庄市 かむてん ©新庄市×富樫義博)

みんなのとち介!

Yuru-Tochi Clusta

栃木市の魅力を
SNSでゆるやかに発信!!
ゆる栃くらすた



栃木市の魅力をゲーム感覚で発表!



専用シートに魅力をまとめたり...



みんなで共有したりして、盛り上がる♪



フィールドワークでは、SNSなどで発信していくための写真を撮影。



PHOTO: amekanaさん撮影



改めて栃木市の良さを考える、いい機会に。



どこを撮るかは、メンバーの自由!



フィールドワークでは、タイムトリップ体験も。

当時の審頭さんは、こんな感じ!?



昔のマントつきの外套をまとい、とち介とおそろい♡



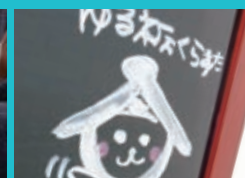
思い思いの角度で洋館をパシャリ。



何気ない風景も撮ってみる。



中には小さな発見も! (とち介柄の自販機)



これからもゆる〜く活躍します☆



Hello!
私、「ゆる栃くらすた」です!

♡ y_tochiko ゆる栃くらすたに参加中^^

info.

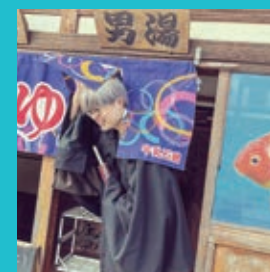
お問い合わせは
栃木市シティプロモーション課
シティプロモーション係まで
TEL.0282-21-2315

「ゆる栃くらすた」は「栃木市を
発信する」という目的さえあれ
ば、ツール・回数・頻度・内容も
すべて自由気まま! 自分たち
の目に映る街の日常や出来事
を切り取り、市民にしか発見で
きないリアルな魅力をゆるや
かに発信していきます。今後
も随時メンバーを募集し、定期
的にワークショップやフィール
ドワークを行う予定です。

栃木市にあるたくさんさんの魅力
を、市民の目線で発見し、SNS
などで発信するプロジェクト
「ゆる栃くらすた」「くらすた」
は、英語の「cluster(クラスター)」「が語源で「集団」や「房」
という意味があり、市内在住の
年齢も性別も異なるメンバー
で構成されています。
プロジェクトでは、3回のワー
クショップを実施し、SNSで発
信する時の文章の書き方や写
真撮影のコツなど、楽しみなが
ら学んでもらいました。また、
フィールドワークを実施し、実
際に街に栃木市の魅力探しに
出かけて、発信をしました。



♡ mint_mameta



♡ ms_hashmal



♡ amekana



♡ dandy_at_morin



TOCHIGI CITY PEOPLE

栃木市“活人”

この街で生きる人たちの
目に映る栃木市には、
どんな魅力が“ある”のでしょうか。



ぶどう作りの魅力を
伝えていきたい。

ぶどうの花や、作業風景を見た事がない人は多いと思います。私たちが、日頃からぶどう作りにどれだけの愛情を注いでいるのか。天気に振り回されながらも、ぶどうの成長と共に一喜一憂する日々。ぶどう農家として日頃のぶどう園の様子を消費者の方に知ってもらいたい。そう思うようになり、Facebookを通して発信するようになりました。私は、三代続くぶどう農家の後継ぎ娘です。代々伝えられてきたこだわりの部分は守りつつ、夫と両親、そしてスタッフのみんなと共に新しい試みにも日々挑戦しています。私たちは、地元の方に愛される、笑顔になれるぶどうを作り続けたいと思っています。

PEOPLE FILE

農業の魅力を発信

小林さん

KOBAYASHI san

小林一夫ぶどう園 小林 美香さん



ぶどう園の魅力をより多くの方に感じてもらいたいと、プロの力をお借りして今までにない「非日常の空間」を提供するイベントにも挑戦しました。ぶどう畑の中でヨガをしたり、ぶどうを使ったスイーツを食べるなど、ぶどうの魅力に私自身改めて魅せられています。より多くの魅力をこれからも伝えていけたらと思います。

スカイダイビングを
もっとメジャーにしたい。



私はNPO法人スカイダイブ藤岡の事務局として国土交通省との調整や運営の管理をしています。小学生の頃から模型飛行機が好きで、洋書でグライダーやパラシュートの本まで注文して読んでいたほど、空やスカイダイビングに興味があり好きでした。陸上自衛隊に勤めていた時も、上司から空挺団に入ることを勧められていたくらいです(笑)そんな私が日本中を探して見つけたのが、この藤岡町であり渡良瀬遊水地。こんなに広い空間と美しい自然があり、1年中スカイスポーツが行える空は他にないと思います。特に空から見える360度のパノラマは絶景です。高度1,250feet(3,800m)からのダイブは、まるで“宇宙のチリ”になったような感覚になりますよ！
私はこの仕事を通して、スカイダイビングをもっと一般の人でも

PEOPLE FILE

自由な空のオトコ

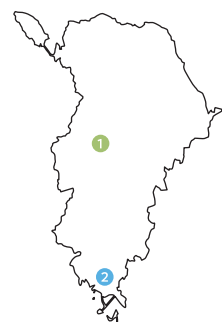
藤原さん

FUJIWARA san

NPO法人スカイダイブ藤岡 藤原 誠之さん



楽しめるメジャースポーツにすることを目標にしています。興味はあるけど一人で飛ぶのは不安な方、本格的にはじめたい方も、私たちプロのインストラクターが付いているので安心してチャレンジしてみてください。ここは他に無い、スカイダイビングをするには最高の場所です。ぜひ私たちと一緒に日本で一番自由な空を楽しんでもらえたら嬉しいです。



① 小林一夫ぶどう園
栃木市大平町西山田1568
TEL.0282-43-3848
[HP]<http://www.cc9.ne.jp/~yo-kobayashi/home.html>



② NPO法人スカイダイブ藤岡
栃木市藤岡町藤岡1837
TEL.0282-62-5390
<https://www.skydivefujioaka.jp/>
※MAP上の位置は「スカイフィールドわたらせ」
(スカイダイビング実施場所)です。

Profile

蜂須賀 孝治 (はちすか こうじ)
J1サッカー選手(ベガルタ仙台)
栃木市出身
大平南JFC～ホーリーホックスとちぎ～
ヴェルディSS小山～桐生第一高等学校～
仙台大学～ベガルタ仙台
2012年デンソーカップチャレンジサッカー
ベストイレブン選出
©VEGALTA SENDAI

ベガルタ仙台 蜂須賀 孝治さん

KOJI
HACHISUKA

心から落ち着ける街です。
(蜂須賀さん)

私は、宮城県仙台市がホームタウンのプロサッカーチーム、J1「ベガルタ仙台」でプロサッカー選手として活動しています。栃木市は高校を卒業するまでの18年間住んでいた思い出の街です。特に大平運動公園は学生の頃たくさん練習や試合していた場所です。それから、この街には私が世界で一番美味しいと思っているラーメン屋「森田屋 大平店」があります!あのお店だけは絶対に無くならないで欲しいですね!私が青春を過ごした栃木市には、他の人に自慢したい魅力がまだまだあります。果物(特にブドウ)が本当に美味しいですし、都会にはない平和で落ち着いた雰囲気もある。かと言って田舎過ぎず、ちゃんと昔の風情と現代の進化を取り入れた心から落ち着ける街です。これからも周りの地域に囚われず、栃木市独自の文化を大切にしたいと思っています。

Profile

富田 晋伍 (とみた しんご)
J1サッカー選手(ベガルタ仙台)
栃木市出身
FC大平～ヴェルディSS小山～
東京ヴェルディユース～ベガルタ仙台
2012年サッカーマガジンベストイレブン選出
©VEGALTA SENDAI

ベガルタ仙台 富田 晋伍さん

SHINGO
TOMITA

写真は2018シーズンのものです

サッカーで地域を活性化したい!
(富田さん)

J1「ベガルタ仙台」でプロサッカー選手としてプレーしています。私は栃木市に、中学3年生まで住んでいました。古き街並みが残り、いつ帰ってきても落ち着く場所です。そして何よりも街がスポーツに力を入れていることが自慢です!そんな栃木市に何か貢献できないかと思い、ベガルタ仙台でチームメイトだった武井沢也さんと共に、「TSA」という小学生対象のサッカーアカデミーを栃木市に開校しました。私たちがプロの世界で培ってきた経験と技術を多くの子ども達に伝え、サッカーの楽しみを知ってもらい、一人でも多くのプロサッカー選手が栃木から輩出されたいなと思っています。ぜひ私たちと一緒にサッカーで街を盛り上げましょう!!

Profile

吉川 真 (よしかわ まこと)
宇宙航空研究開発機構
准教授 理学博士
はやぶさ2ミッションマネージャ
栃木市出身
東京大学大学院理学系研究科
天文学専攻博士課程修了

何度も登った太平山が、
一番好きです。

宇宙航空研究開発機構(JAXA)の宇宙科学研究所に勤めています。現在は「はやぶさ2」のミッションマネージャとして、「はやぶさ2」プロジェクトに関わっています。また、これまでも火星探査機「のぞみ」、小惑星探査機「はやぶさ」、金星探査機「あかつき」など、日本が打ち上げた太陽系天体探査機のプロジェク等に関わってきました。栃木市には生まれてから高校を卒業するまで住んでいて、山岳部だった高校時代はよく山登りの練習で、太平山や錦着山まで走ったりしていましたね。そんなこともあり、私が栃木市で一番好きな場所は太平山。小さい頃から部活の練習まで何度も登った思い出の山です。それから冬の栃木市は特に天気がよく星が綺麗に見えるので、栃木市に生まれてよかったと感じます。

宇宙航空研究開発機構(JAXA)宇宙科学研究所 准教授 吉川 真さん

MAKOTO
YOSHIKAWA

大きな災害がない、住みやすい街だと思います。

栃木市には、大きな災害も無く天候も良いですし、落ち着いて住むにはピッタリなイメージを持っています。街の規模も大き過ぎず、小さ過ぎないちょうど良いバランスを保っているのも特徴的です。私が住んでいた頃(1980年くらいまで)と比べると、栃木駅周辺や大通りが

大きく変わったなど感じるがありますが、個人的には、巴波川や太平山は昔のまま変わらないことを願っています。この先もあまりゴミゴミしないで、栃木市独特の落ち着きある雰囲気と美しさを守り続けて欲しいと思っています。

いろいろ“aru”、まだまだ“aru”

本編で紹介しきれなかった写真たちをご紹介。



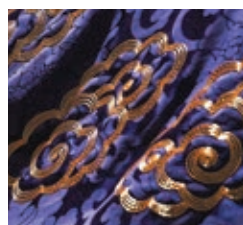
太平山の紅葉×野点傘の赤はこの時季だけの色。



赤城亭のテーブル。隅々までレトロなのは本物の証。



蔵の街の一角にはこんなビビッドな外観の建物も。



万町2丁目、日本武尊の山車の水引幕。



銭湯「玉川の湯(金魚湯)」2Fにある、スケートボード場「金魚湯ランプ」入り口。



提灯コレクション@秋まつり その1



提灯コレクション@秋まつり その2



秋まつりで小腹が空いたので「小江戸むすび」をバクリ。



2018年の秋まつりは晴天。屋台で買った金魚。



山車巡行の責任者だけが羽織るのを許される「鹿革半纏」。



とちぎ江戸料理の期間限定駅弁「とちぎ秋まつり弁当」。



提灯コレクション@秋まつり その3

あなたも栃木市の“aru”を見つけてください。

私たちがこの冊子の取材・撮影をしました。



お気に入り写真「窓」

H.K 栃木市役所 総合政策部
シティプロモーション課

栃木市にはいろいろな時代の建物が存在しています。漫然と見るのも良いですが、何かにこだわって見て歩くのも面白いと思います。その中でも、窓って形や色や素材の種類が沢山あって、面白いと思うのですが如何でしょう？ ちょっと意識するだけで、気になる窓がいっぱいあるものですよ。



お気に入り写真「謙信平の紅葉」

M.F 栃木市役所 総合政策部
シティプロモーション課

県外の盆地出身の私にとって、初めて太平山謙信平から関東平野を一望する景色を見た時、とても感動したことを覚えています。今でも地元の友達や親戚が遊びに来た時は、真っ先に連れていくお気に入りの場所です。ふるさとじゃないけど、ふるさとにいたい。そんな不思議で温かい魅力を感じる栃木市。これからも皆さんと一緒にその魅力を届けていきたいです。



お気に入り写真「おばあちゃん、りんごめ買って」

N.F 栃木市役所 総合政策部
シティプロモーション課

とちぎ秋まつり取材中、りんご飴の屋台で撮影しました。おまつりとは、非日常のできごとではありますが、家族の日常の1ページでもあるんだなと思った瞬間です。特別な場所や時間でなくても、栃木市で育まれる「日常」や「人」を愛していきたい。この冊子は、そんな気持ちでつくっています。

aru vol.3

第3号でもたくさんの“aru”をご紹介。2020年度発行予定

○この冊子に関するお問い合わせ／栃木市 総合政策部 シティプロモーション課 〒328-8686 栃木市万町9-25 電話：0282-21-2315

○制作／取材・撮影：栃木市シティプロモーション課 編集・デザイン：ヤマゼンコミュニケーションズ株式会社

○取材・撮影協力(順不同)／大兵工務店、岡田記念館、栃木レザー株式会社、桐工房 沼尾商店、香と線香 蘭と月、万町1丁目自治会、倭町3丁目自治会、赤城亭、あさかやパン店、Patisserie SOIR、Book&カフェなすな、蔵の街遊覧船、小林一夫ぶどう園、NPO法人スカイダイブ藤岡